

平成 15 年度 大学院入学者選抜試験問題 (第 1 次)

専門科目

経済理論・経営理論分野

以下の問 1 と問 2 との中から 1 問を選んで解答しなさい。

問 1 (経済理論) 以下の(ア)、(イ)、(ウ)の間から 2 つを選んで答えなさい。

- (ア) 収穫逓増下で完全競争均衡が存在しないのはなぜか、また、収穫逓増下におけるある種の均衡を説明しうる理論にはどのようなものがあるかについて論じなさい。
- (イ) 外国貿易と資本の国際移動とを含んだ開放体系の IS-LM モデルにおいて、財政支出の増加が、所得と経常収支とにどのような影響を与えるかについて述べなさい。
- (ウ) 外部性の定義を述べ、それが競争均衡の非効率性をもたらす理由を述べなさい。

問 2 (経営理論) 過去の経営理論であっても、今日の経営において発展的に実践されているものはある。

たとえば、F・W・テーラーの理論もそうしたものの一つである。テーラーの理論の中核をなすのは工場のライン作業における能率研究であるが、より具体的には動作研究、時間研究と呼ばれるものである。これは後に I E の基本原則である 3 S (標準化、単純化、専門化) として結実する。そして、この 3 S はフォードの経営において、工場・事業所レベルでもって本格的に展開される。さらに、フォードの経営革新は、トヨタ生産方式を典型とする多品種少量生産や、多品種少量対応のための効率的な企業間関係というかたちで受け継がれ、今日では企業レベル、企業間レベルにおけるより発展した効率追求活動として展開されている。ただ、テーラーの業績により近い 3 S に絞っているならば、これは従来の製造業分野よりも遅れて産業化した流通・小売業や外食産業等において、今日むしろ本格的な適用が図られている状況にある。

そこで、このことについてより詳しく述べよ。その際には、企業経営の発展とそれをとらえる経営的な枠組み(経営理論)の発展の関係がわかるように留意して論述せよ。なお、論述で踏まえる事例については、自らがより適切と思う事例があるならば、必ずしも上記の事例にのみ限定するものではない。つまり、本問の論述は、上の事例を他の事例に差し替えて行っても構わない。